

「ヤナギラン」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

夏の北極圏を旅行すると、ピンクの美しい花がたくさん咲いているのを目にする。中には、草原一面に咲いていることもある。着陸が近く、低空で飛ぶ旅客機の機窓から見ると、地面が桃色に見えるほどだ。これは「ヤナギラン」の群落である。



「ヤナギランの大群落」丘一面をヤナギランが覆っている。スウェーデン・スバップバーラ村(北極圏)

最初に見た時は、果実の形から、アブラナ科の一種と思った。しかし、これはツキミソウと同じ、アカバナ科 *Onagraceae* の草本植物である。この美しいヤナギランは、嬉しいことに北軽井沢でもよく見られる。



「北軽井沢のヤナギラン群落」



「ララローセンの駅」 ヨックモック郡・ポルユス駅
夏の北極圏の象徴的な存在。スウェーデン語では **Rallarros** (ララローセン) といい、愛される花だ。



ヤナギランは花の付き方(花序)が面白い。花は、幹の下のほうから順番に咲いてゆき、先端には次々と新しいつぼみが現れる。一番上の花がまだ咲かないうちに、一番下のものは、すでに果実がふくらみ始めている。これを「総状花序」という。
私はこの花を見ると、夏のスウェーデンを旅行している気分になる。

「ヤナギランの花序」 *Chamerion angustifolium*
アカバナ科 北軽井沢 9月上旬